

滞在アーティスト達の成果展始まる

アートの現場から

ACAC通信

現在、青森公立大学 国 芸士の村上あさ子さんとの
際芸術センター青森(ACAC)では、アーティスト
・イン・レジデンスプログラム「Making Things」で滞
っているアーティスト4名の展覧会、ヴァネッサ・エ
ンリケス個展「空(くう)に浴す」、前田耕平個展「点
個展「影を誘う」、吉田真也個展「死を包むもの」を
開催しております。今年度のレジデンスプログラムに
参加したアーティストの多くが、ACACを取り囲
む自然環境や建築空間にも興味を向け、ここなら
はの作品を展開していま

約2年半ぶりとなる海外からのアーティスト、ヴァネッサ・エンリケスさん(メキシコ出身、ドイツ在住)は、VHSテープを用いたギャラリー空間へのドローイング作品を制作しました。特徴的な6メートルの天井から伸びるVHSテープは、上部の窓から差し込む光を受けそれ自体も反射しながら、弧を描く壁面に幾何学的な影を映し出します。また、津軽裂織伝統工

位置しており、自然環境に恵まれています。大阪を拠点に活動する前田耕平さんは、山にいる神のようないもののかいなのか分からないもの、麓に足を自らの身体によって刺激し、生命の灯、というべき点を浮かび上がらせようとしています。展覧会はワークインプログレス形式で、日々行われるエクササイズを通して会期中その姿を変化させていきます。12月4日(日)

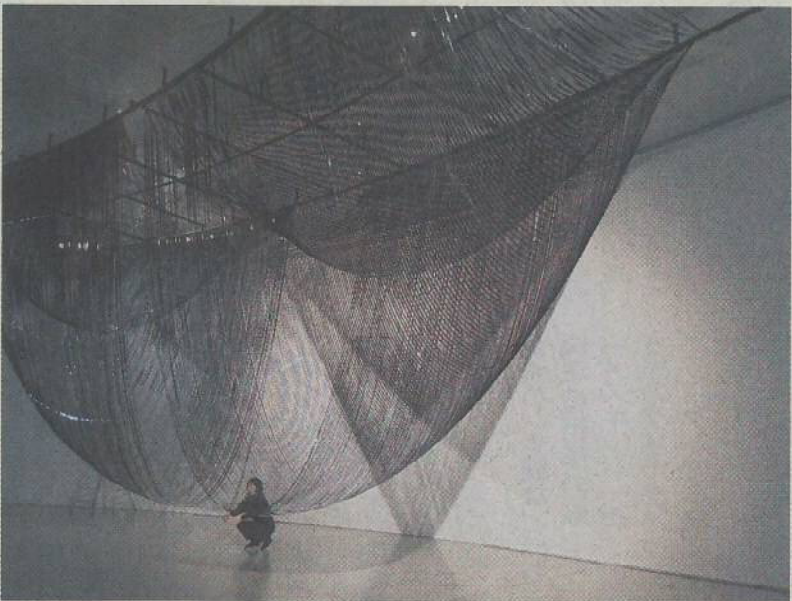
にはACACの山麓を電子機器や松明の火で照らすエクササイズや12月11日(日)にはこれまでの活動を集結させ、金山焼から分けていただいた土で作った鍋、その中で作られるうどんを囲むイベントも開催します。寒い青森の冬を刺激するようなエクササイズは、イベントを通して皆さまにもご参加いただけます。

野辺地町出身の吉田真也さんは、出身地に隣接する六ヶ所村を中心にリサーチを行いました。現在は科学・産業都市として様々な工場が立ち並ぶ六ヶ所村ですが、大規模開発に先立ち行われた発掘調査では、縄文

時代からの遺跡が多数発掘されています。時代を超えた人々の営みに注目した映像作品は、歴史には現れなかった存在についても思考することを促します。12月4日(日)には、六ヶ所村立郷土館からゲストを迎え、展示では取り上げられなかった縄文遺跡についても深掘したトークイベントを行います。

これらの展示はすべて12月11日(日)まで無料でご覧いただけます。冬の訪れがすぐそこに感じられる季節となりましたが、アーティストの力あふれる作品をぜひACACでご高覧ください。

(青森公立大学 国際芸術センター青森学芸員 武田彩莉)



エンリケス「空に浴す」設営時の様子